

# 大河原 ロータリークラブ会報

会長：岡崎 隆 副会長：佐々木由美子 広報・IOC 委員長：津田 政行  
幹事：庄司 大 副幹事：鈴木 孝典 副委員長：中山 雅之  
委員：櫻井 淳一

2022~2023年度  
国際ロータリーのテーマ  
イマジン  
ロータリー  
IMAGINE  
ROTARY  
2022~2023年度IR会長 ジェニファー・ジョーンズ  
国際ロータリー第2520地区 天 沼 久 純  
2022~2023年度ガバナー

例会日：毎週木曜日 12時30分 例会場：和洋亭ぶざん 柴田郡大河原町字新南 25-18 TEL 0224-51-1113

## 会長あいさつ

会長 岡崎 隆

### 2023年2月4日(土) 第2630回 創立記念移動例会



午後4時半の開会となりますので、皆さんお晩でございます！

本日は創立記念総会・移動例会ということでご当地蔵王町遠刈田温泉・アクティブリゾート宮城蔵王での開催にお運びいただき感謝申し上げます。

コロナ禍の影響で3年ぶりの移動例会の開催となります。宿泊を伴うこと、宴会の開催、二次会と予定が組まれ以前の日常の姿に戻ってのロータリー活動に感染防止に気を付けながらもワクワクしております。

さて、この後の全員協議会では次年度、佐々木由美子会長以下一年間クラブを支えていただく理事メンバーがいよいよご披露頂く運びとなっております。

佐々木年度もスタートに向けて幸先よく次年度理事メンバーは快くお引き受け頂いたとお聞きしております。これも佐々木会員の人徳、普段からのロータリー

に対する真摯な取り組みの賜物と受け止めております。

また、本日は設立記念の移動例会ではありますが、月初めの例会でもありますので誕生日、結婚記念の会員をご紹介させていただきます。

誕生記念会員として16日奥林潔会員、25日佐藤克己会員、26日丸山勝利会員お誕生日おめでとうございます。

次に結婚記念日を迎える岩間範男会員4日、丸山勝利会員22日重ねておめでとうございます。

最後になりますが、窓越しに激しく雪が降る光景が見えております。この勢いで降りしきると明朝大変なことになりそうですが、にわか雪との予報だそうです。

ただし明日は冷え込むそうなので、しっかり温泉で温まりなるべく飲みすぎないように、しっかり酔いを醒まして安全運転で明日ご帰宅いただくことをお願いいたしまして会長挨拶とさせていただきます。

### 2023年2月9日(木) 第2631回 例会

皆さんこんにちは！

暖かくなってまいりましたが、一転今日は肌寒く風の強い一日となりました。

明日夜半から未明にかけて雪も降るようなので週末のお出かけ、お仕事には十分に気をつけていただければと思います。

また、先週は遠刈田での設立記念移動例会に多くの会員の皆様のご参加を賜りありがとうございました。無事、次年度理事メンバーが選出され次年度へ向けての抱負も述べていただき、佐々木由美子年度のスタートに向けて第一ハードルを無事飛越し幸先よくスタートに向けた準備が整いつつあると実感いたしました。

私と庄司幹事も残り5か月間、サッカー大会、釣り大会、インターシティミーティングと3つの大きな行事を無事に成功できるよう今後の皆様とともに頑張ってみますので、ご協力をくどいようですがお願いす

るばかりです。

結びに、本日は八島幸夫会員のご母様のご逝去され、この後2時より葬儀告別式が執り行われますので私の会長挨拶は短く終わらせていただきます。

代わりに、会員本日スピーチでの田中史人会員委は存分にスピーチをご披露していただくことをご期待申し上げます。

## 菓匠三全について

株式会社菓匠三全 専務取締役 田中 史人

皆さん、こんにちは。今日の話を楽しみにされている方もいらっしゃるようですが、私はほぼ工場で仕事をしており、この様に皆様の前で話すという事が無いので、先ず、当たり障りのないことから話をさせていただきます。

お手もとの「SANZEN SPRIT」というパンフレットをご覧ください、先ずは、弊社の歴史というところからお話いたします。

前会長の田中實が蔵王の麓で1947年10月に飴屋を始めました。この時、創業者は37歳でした。そもそも北海道で小学校の先生をしており、29歳で東京の理系の大学に入り直し、理化学研究所で働きながら卒業し、中島飛行機に入社。その後、研究所で開発に従事しながら終戦を迎えました。戦後の食糧難ということで蔵王に入って開墾し農業をやる中で飴づくりをして商売を始めたという事です。その後、大河原町の保料に移り住み、田中製菓工場でかりんとうづくりを60歳まで続けました。その頃、子供たちも育ち、学校も出たのを機に、自分の好きなことをやりたいという気持ちになりました。一つは三育学園。20年近く勤めた教師の仕事に未練があり、幼児教育をやりたいと考えたのです。丁度その頃公文式が出てきて、それに触発されたこともあり、私もやるという気で、わざわざ公文さんのところに行って色んなことを話したそうです。でも、これは全く仕事になりませんでした。私も小さい頃、当時作った教材で前会長にはいろいろと教えてもらいました。もう一つは「ポリ綿」という、今でいうウェットティッシュです。その頃は毎年赤痢がはやるなど、衛生面が遅れていたもので、脱脂綿を小さくカットして、アルコールを含ませ、アルミのフィルムで包装していつでもどこでも使えるようにしたものです。それを病院などで使えないかという考えでしたが、当時は包装機もあまり良くなく、不十分な包装からアルコールが蒸散して、ただの綿が残って、クレームの嵐となり、これもやむなく中止となりました。周りから、いろんな事をやりすぎる、もっとお菓子に集中するようにと忠告されて、いよいよ本気で取り組んだのがバウムクーヘンのお菓子「伊達絵巻」で、ここからが菓匠三全の企業としてのスタートです。

伊達絵巻は私が生まれた頃に出来たお菓子です。若い方には伊達絵巻、伊達小巻はなじみが薄いかと思いますが、結構根強い人気で売られています。絵巻小巻の後の1977年に「萩の月」が生まれるのですが、その時に役立ったのがそれまでやって失敗していたことだったのです。

「萩の月」は水分量が多く日持ちのしない商品なので、防腐剤を使わずに菌を増やさない技術の開発が必要でした。前会長は、先の「ポリ綿」で培った、菌の知識とバリア性のある包材とそれで包装する技術を生かしました。密封包装した中の酸素を無くすためには、三菱ガス化学のエージレスを用いることを考えましたが、鉄粉の匂いが食べ物の邪魔になるという壁にぶつかりました。運良く、大学時代の同級生が社長の会社を訪れたときに、ヤンガラ活性炭を教えてください、すぐテストしました。しかし、匂いだけでなく風味も吸着してしまいました。ここから前会長は戦前に、研究所で合金の開発を手掛けた経験を生かし、鉄粉と活性炭の最適の配合を突きとめ、酸素が取り除かれ、風味も保たれる「エージレス」の完成へと導いたのです。

前会長は社員教育にも力を入れました。飴やかりん糖を作っていた時は、10~20名でしたが、「伊達絵巻」や「萩の月」が発売された頃となると、200~300名の社員が入社しました。その方たちを教育するうえで、学校の先生をしていた経験が生きて、上手く回せたと思います。

この年表には載っていませんが、三全は「サンマリー」「杜の草庵」「レフィーユ」「青ざし」「ミー&チーズ」といったブランドをどんどん世に出しております。長く続かずに消えていったものも多いのですが、いろんな事に挑戦したなかで残り、成長していったものもあります。

菓匠三全のものづくりについてお話をします。パンフレットの一番始めに載っている「伊達絵巻」はなぜいまだに売れ続けているのかというと、ひとつは、発売当初から小麦粉の香りや小豆の風味といった細かいところにまでこだわっているからです。もう50年近く前に売り出されて、その間にも原料面で工夫をし、変えて

もきています。ある時、お客様から変わったねと言われて、小麦粉が外国産に変わったのがいけなかったとわかり、元に戻したり、地元の製粉メーカーさんがやめてしまっただけで変えざるを得なくなったり、その都度いろいろ試行錯誤をしながら元の味を守っていきました。なにか懐かしい味がすると言われるのも、そういったところかと思えます。「伊達小巻」は、素朴な餅菓子で、小豆、ごま、梅の三種類ありますが、それぞれ特殊な作り方にこだわっています。小豆は北海道産の小豆を一晩水につけ、ごまも自分たちで焙煎して摺ってペーストにしています。梅は、1年以上寝かした梅干しを上手に摺りつぶして使っています。購入した材料をそのまま使うことはせずに、全て手間を加えて作るということを徹底しています。

「ずんだ餅」は昔から地元で食べられていますが、広く知られていませんでした。夏に他所から来られた方から、この時期に仙台に来ると餅のまわりにくっついていて緑色のものは何なのとよく聞かれます。それは「ずんだ」、枝豆ですよと答えるのですが、なかなか認知度が上がらないので、これを全国に広めていこうということになりました。

それで、30年以上前から、ずんだ餅にあう豆はどういう豆なのかと探し始め、だだちゃ豆が未だそれほど知られていなかった頃から豆畑まで行って、農家一軒一軒にあたって作付けを増やしてもらいました。10年くらい掛けて豆の収量が上がったところで、それを使ってお菓子を開発し、「ずんだスイーツ」を今の様な形で全国に広めて来ました。ずんだも、餅だけではなく、「ずんだシェイク」や「ずんだロール」という風に、いろいろやってみると、洋風のものにも非常に合うということで一気に認知され、仙台だけではなく、東京、大阪にも売り出されています。

「ロワイヤルテラッセ」も洋菓子の最高峰を目指してスタートして早や30年を迎えました。レトロモダンというテーマで考えて、オリジナルのアーモンド粉だったり、国産の芋を時間をかけて選んだり、毎年少しずつ改良しています。

「ロワイヤルテラッセ」の商品は毎年モンドセレクションの最高金賞を受賞しています。テレビ等で目にして、モンドセレクションはお金を出せば貰える賞なのかと言われておりますが、実際のところ、お金は出していません。出品料は出しますが、あとはベルギーの本部で審査が行われ点数が付けられます。もともとEUの組織の一部で、品質のチェックが行われていました。今は、対象のカテゴリーが拡大して、審査機能が薄まっている気もします。しかし、審査対象は実際に市場で販売されているものなので、ある時、わざわざヨーロッパから理事の方と審査員長の方が当社を訪れ、工場と、仙台の旭ヶ丘本店を視察しました。自分たちが審査した商品と、工場で作られ、店で売られている商品が同じだと確認したのだと思います。そうした中でも、「アーモンドパイ」は30年にわたって最高金賞をとり続けています。時代の嗜好を見て工夫し、毎年少しずつ変えて作っています。具体的にはパイの層を変えてみたり、パイにのっているアーモンドの種類を変えたりなどを行ってきました。

このように商品を作っていくにあたっては、その根底に「菓匠三全の誓い」というものがあります。「お客様へのサービス」と「喜働の職場づくり」と「堅実経営」の3つにおいて完全を目指すという理念です。パンフレットに掲載してある通り、「お客様に完全なサービスを提供し、御満足をいただきます」にはじまり、「社員一人一人が持ち味を生かし、喜んで働く職場を築きます」「どのような厳しい社会の変化にも適応し、強くたくましく伸びていく堅実な会社を作ります」という内容で、菓匠三全の名前の由来となっています。これを毎朝唱和して仕事を始めています。この、お客様のサービスというのは、毎日来ていただくお客様もそうですし、取引先もそうですし、見えないところを注意してくださる方々、すべての人々へのサービスを徹底しましょうということなのです。

また、社員の環境づくりでしたら、働いてよかったなと思える職場に。3月には新入社員が入ってきますので、これを徹底していきます。

菓匠三全のマークですが、これは家紋のように見えますが、今話した菓匠三全のハートです。先ほどのお客様と社員と堅実経営の3つのハートがあり、それが同じ大きさであるという事です。これは、もし、お客様ばかりを優先してしまうと、社員が大変な思いをして働く環境になったり、経営もふるわなくなっていくたりします。また、社員の事ばかり考えると、今度は、お客様が蔑ろになったり経営がおかしくなっていくります。さらには、経営ばかり考えると、今度はお客様へのサービスも社員の働く環境も影響を受けるので、この3つのハートのバランスを同じ大きさとし、3本の矢印が最大限に広がり、外の方にどんどん伸びていくイメージです。3つのハートが同時に大きく広がっていき、この円でぐるぐると回り、お客様・社員・堅実経営の3つが良い循環をするようにという思いです。間違っても、堅実経営から始まらない、始まる場所は「お客様あ

ての我が社である」というところからで、ぐるぐると常に伸びるプラスの循環を作り上げていこうとする会社です。

「あしたも」という言葉も、うちの会社が大切にしている言葉です。一番はじめ、飴屋を始めた頃、先般114歳で他界した創業者の妻田中トメが、出来上がった飴を遠刈田温泉に持って行ったところ、「あしたも」この飴を持ってきてねと言われたエピソードに由来します。当社のセールスレディー第一号の心に響く言葉でした。

提供し始めて、明日も持ってきてねと言われる限りは作り続けていきます。そのように言っていただけるお菓子を作り、サービスを行っていきますので、今後とも是非、宜しくお願い致します。

## 2023年2月16日(木) 第2632回 例会

皆様こんにちは！

立春を過ぎて先週は大雪に見舞われましたが、寒さも緩んだせいか多少雪かきに追われましたが、街中の雪も解けるのが早く消え、月曜日の登校や出勤に大きな影響が出なかったことにホッとしております。

本日は大河原中学校校長の佐藤亨校長先生をお招きして学校の現状についてスピーチを頂きますが、本当にお忙しい中おいでいただいたことに心から感謝申し上げます。

さて、連日報道でトルコ・シリアでの地震が取り上げられておりますが、被害の全容が見えてきたのかなと感じております。2月6日のマグニチュード7.8の地震と同日の9時間後に発生したマグニチュード7.5の地震によってトルコ側で35,418人、シリア側で5814人と両国合わせて死者は41200人を超えております。

発災から10日を過ぎても奇跡の救出は続いておりますが、多くの犠牲が出ていることに世界中の人々が胸を痛めております。

特に子供たちへの支援が急務であり、また長きにわたり必要であるとユニセフ＝国連児童基金は発信しております。トルコの10の県で460万人、シリアでも250万人、計710万人もの子供たちが被災したと報道されております。

生存した子供たちの多くは親と家を無くし路上などでの寝泊まりせざるを得ない状況であり、低体温、呼吸器疾患を訴えている現状も報告されております。

また、地震そのものについての日本の国土地理院による衛星での調査では、最初の地震で400km、2度目の地震では100kmにわたる地殻変動が起こり、地盤のずれは断層を挟んで2メートルから5メートルにも及んでおり2016年熊本地震の10倍の地殻変動が起き、建物被害でみるとトルコだけでも15日付の政府発表で66,000棟が全壊したとありました。ほとんどの建物の崩壊は垂直に建物が崩れ落ちるパンケーキクラッシュと呼ばれるもので、構造の脆弱さによって一瞬にして東日本大震災の2倍にも及ぶ犠牲者を出すこととなり、政府はしっかり今後調査するとのことでした。

日本としても国際救助隊が昨日8日間のトルコでの救助活動を終え、羽田空港で現場の窮状を報告する様子がテレビで報道されておりましたが、私たちロータリアンも何かできないか現在忸怩たる思いでおりますが、国際ロータリーのジェニファージョーンズRI会長は被災地と直接連絡を取り支援に乗り出しており、被災地のガバナーに災害救助補助金の申請を促し、ロータリー財団委員会は現時点から3月31日までにロータリアンによって寄せられた寄付金を被災地支援のプロジェクトに充てるとし、現在12,500ドルが届いております。当クラブにも後ほど幹事報告で報告があると思っておりますが、ガバナー事務所より会員一人当たり1,000円の災害義援金の振り込みのお願い、指示があり、別にロータリー災害義援金に2520地区として10,000ドルの寄付を行うとの報告もありました。また個別の寄付も受け付けておりますし、現地での活動を支援する場合も情報がだんだんと届いてくるようになったようで、現地のロータリー会員と直接協力してこの支援プロジェクトに参加できます。現地での救援活動の問い合わせ情報公開についてはrelife@rotari.orgにおいて2月9日から問い合わせができることとなったとの報告が国際ロータリーのホームページ上で公開されております。

トルコのロータリー活動の現状は230のクラブ、5996人のロータリアンが活動しており、最初に誕生したクラブは1954年に首都があるアンカラクラブだそうです。地区としては2420、2430、2440地区の3

地区があり、私たち大河原クラブも今回の支援に留まらず、特に子供たちへの息の長い支援に携わっていきたいと強い想いを持たなければなりません。

私ももちろんですが次年度会長、次々年度会長、その後の会長また、今後の国際奉仕委員長、青少年奉仕委員長に就任される方には特段のご理解を頂くことを最後にお願ひ致しまして会長挨拶に代えさせていただきます。

## 大河原中学校の現状について

大河原町立大河原中学校 校長 佐藤 亨



それでは改めまして皆様こんにちは、大河原中学校長の佐藤亨と申します、どうぞよろしくお願い致します。

先ず大河原ロータリークラブの皆様方には日頃より本校の教育活動についてのご理解やご協力暖かいご支援を頂きまして本当に有難うございます、心から感謝申し上げます。また本日は昼食までご馳走になりまして上機嫌になっていますので一寸脱線した話になるかもしれませんが少しの時間お付き合い頂ければと思います。

この様な本校の教育活動についてお話をさせて頂く機会を与えて頂きまして本当に有難うございます。

最初に一寸だけ私の自己紹介をさせて頂きたいなと思っておりますが、私も今大河原町民です。大河原に居を移したのが平成3年、1991年だったので30年以上たっているのでしょうか、私の父親がもともと昔の国鉄職員だったものですから東北地方を転々と転勤していたのですけれども、丁度私も小学2年生の時に北白川の駅長になったのですね。その北白川が私の母親の実家がある所でしたので長く住む事になって、私は隣の白川小学校、白川中学校を卒業しています、高校生の時に金ヶ瀬の大高山神社の近くに家を建てましてその後金ヶ瀬に住んでいました。その後働くようになっていろんなところを移っていましたが、先ほど話しました様に1991年から大河原に住んでいます。私は娘が2人いるのですが、2人とも大河原小学校、大河原中学校の卒業生という事になっております。

私も教員になって平成24年度、25年度は金ヶ瀬中学校教頭を2年間勤めさせて頂いて、令和3年の昨年度から大河原中学校の方に勤めさせて頂いて今年で2年目という事になります。私は1963年生まれなので、来年1年で定年という事になりますが、明日実は人事の会議があって、そこで残り1年間何処かに行けと言われるのじゃないかと非常にドキドキして心配をしているところですが、その様な事が無ければ来年1年間大河原中学校にお世話になって退職になるというところですよ。

初めに今日は両面印刷の資料を配布させて頂いたのですが、大河原中学校の学校経営についてお話をさせて頂ければと思います。私たちがよく教頭とか校長に承認する時に学校とは何のためにあるのですか？この様に面接で聞かれたりするのですが、学校の存在目的は一応教科書通り言うと学校教育目標を達成するために学校はあるのだと、そのために学校の先生方はいるんだというのが模範解答らしいのです。なので大河原中学校では、ここにあるような生徒の育成を目的として日頃の教育活動を行っています。この学校教育の目標の元になっているのが、2番目の目指す生徒像の3つの自覚・立志・健康という3つのフレーズがあるのですが、これが本校の校訓というものです。この校訓が設立されたのは、実は先ほどお話頂いた第1回目の立志式が昭和39年に行われているのです、この立志式が本校で行われるようになった経緯としては児童文学作家の「泣いた赤鬼」で有名な浜田宏介先生らが中心になって全国的に中学2年生の年に当たる子供たちに立志式を行わせて、将来の生き方について深く考えさせる機会を与えるという全国的な啓発活動がありました、それに一早く応えて実施したのが大河原中学校という事になります。その中で浜田宏介先生らが検証していたのが、この立志式を行うにあたって子供たちには自覚・立志・健康を強く意識させるという事で広まっていった、それで本校は全国に先駆けで立志式を行った為に、この自覚・立志・健康、昭和39年からずっとこれまで60年間受け継がれている校訓という事になっています。

次に学校の概要についてお話をさせていただきます。本校は全校生徒632人になっておりますが、年が明けて沖縄から転校生徒が来まして633人になっています。特別支援学級も含めると23学級あります、これは大河原教育事務所管内には20の中学校がありますが一番生徒数の大きな中学校という事になります。ちなみにもう1クラスあって24学級になると教頭先生が2人に増えてとても教頭先生の仕事が楽になるのですが、

中々この24学級に達するのは難しい状況にあります。それで職員と教員の他に非常勤で週に1、2回来てくれる先生方や町の支援さん、それから校医さんなども含めた全部の職員という言い方の数で数えると総勢59名という事になるので職員数もとても大きな学校になっております。本校4月には開校75周年記念式典を行いました。昭和22年に学制が改正になって、いろんなところで、大体の学校は開校75周年になっています、本校は大々的に記念式典を行いました。それは同じタイミングで新体育館を作って頂いた事もありまして、本当に立派な体育館です。この体育館の落成記念も含めまして75周年記念式典を行ったところでした。

本校の生徒ですが、殆どの生徒が明るく素直で元気です。多分町の中で出会った生徒はたぶん元気で挨拶をしているのではないかなと思っているのですが、そして何よりも私が大河原中学校に勤めて見てひしひしと感じるのが、この脈々と受け継がれる大河原中学校の伝統の力ですね。昔から私が他の学校に勤めているときからよく聞く言葉ではありますが、大河原中学校は「仙南の雄」だ文武両道で頑張っていると言う様な話を外でいるときも聞いておりましたが、中に勤めてみてやはりそういった大中の伝統を守りながら多くの生徒が毎日の授業や部活動に前向きに取り組んでいます、その成果として中総体ですね。中体連という言い方もしますが、また各種のコンクールでも多くの部や個人が入賞を果たしています。令和4年度の中総体では5つの部が地区大会では優勝しています。県大会でも水泳部の女子が県で総合優勝、それからソフトテニスの個人戦でも優勝しています。そのほか文化的な面でも英語の暗唱弁論大会とか少年の主張、吹奏楽コンクール等でも地区大会の優勝や県大会で入賞というふうに子供たちは本当に文武両道を目指して取り組んどいるという明るく、いい面もございませぬ、やはり630名を超える生徒がいますので必ずしもですね、この様に光の当たる面だけではございませぬ、中には本校だけではなく他の学校でも大きな問題にはなっているのですが、学校に登校できない生徒ですね、不登校であるとか、中々家庭の環境に配慮が必要な生徒も多い状況にありまして、これは中々現状を申し上げると学校の教員だけの対応では改善することは難しい現状にありますので、町の教育委員会や福祉関係の部署その他県の児童相談所、警察署とかその様な関係機関と連携を図りながら組織的に対応を行っているところですが、中々劇的な改善には至らないと言う課題もあります。その様な本校の中の不登校生徒の対応について、実はこの令和4年4月から校内の中に、学校には何とか出て来れるのだけど教室に入れないという生徒も実は相当数いるのです。この様な生徒のために学び支援教室という別な部屋で教室に入れない子供たちが勉強する事が出来ると、この様な教室を設置しまして宮城県の方からも、その教室のために専任の先生を1人付けてもらって、学び支援専任教員とよんでいるのですが、この教員を中心に全校体制でそこでまずは勉強出来るようになる、勉強だけでなく、例えばゲームなどをしてコミュニケーション能力を付ける、その様な力をつけながら、じゃあ自信もついてきたので教室の戻ってみようか、そういった取り組みを推進していて、この1年間でかなりの数の生徒が今まで教室に入らなかったのですが教室にも入れるようになってきております。これは体制としてこの様な体制を整備して頂いた事で改善に向かっているような事例になっております。

また、先ほど私の子供が大河原中学校の卒業生とお話したのですが、今から13、14年ぐらい前だったのですけれども、そのころ私も保護者として大中を見ていたのですが、やっぱり大中だけでなくその頃いろんな学校が、いわゆる荒れた状況にあったのですね。教室に入れなくて教室から出て来る生徒が居たりして、学校に登校出来ないのではなくて、いろんなところで活躍している生徒がいたりして、その様な生徒がいっぱいいたのですが、今その様な荒れた学校の事件はほぼゼロと言ってもいいぐらい起こっておりませぬ。逆に言うとその様な生徒が目立ったので対応の仕方がいくらでもあったのですね。ところが今難しいのは、今申しあげました学校に来れない生徒が多分当時より増えているのではないのかなという事や、今一番手を焼いているのが所謂スマートフォンを介した悪口の書き込みとか画像を無断に載げたりとかラインのグループの中で仲間外れにするとか、その様なかたちの生徒間のトラブルが非常に多くなっています。いろんな事で学校の方に相談を頂くこともあるのですが、正直言って学校は警察でないのひとりひとり携帯電話を取り上げて全部見ると言う状況を確認をする事は出来ないの、この辺のところはご協力を頂いた上で出来る対応をしていくという事になってはいますが、やはりこの様な時代の流れと共に学校の中で対応をしなくてはならない生徒指導案件も形が変わってきている、以前は生徒と格闘する等という事もありましたが、その様な分かりやすい物から非常に見つけにくいもの、対応しにくいものというように変わってきているという現状があります。また多分分かっている物には対応していますが分からない中でその様な事がいっぱい行われている、それも今は心配な事ですが中々どうにも出来ないでいる現状にあります。教職員については教頭を除くと常勤毎日学校に来て授業をしている教員はここに書いてある38名になります。その38名の内2人は、私たち教員は県から給料が出ているので県費負担職員と言いますが2人は大河原町で雇って頂いている教員です。ですから本当だったら36人しかいない所に大河原町で2人の給料を払って先生を雇って頂いているので、その分子どもたちに手厚い対応が出来ています。これは大河原町独自の素晴らしい所だなと思っているところです。

この資料を見て頂くと数学と英語の教員の数が多いのですが、なぜ多いかと言いますと中々数学と英語が子供たちの学力に差が広がりやすいので一つのクラスを、学年にもよりますが2人の教員で受け持っている、一人ひとりの子供たちに手厚く授業が出来るように、この数学と英語の教員を増やしているところにあります、この教員の中で課題になっていることは教員の指導力とかではなくて、今ニュースとかネットで皆様ご存知の事かと思いますが、全国的に教員が不足になっております。なので本校でもそうなのですが、例えば病気で休まなくてはならないとか、出産で休まなくては行けないとか発生した場合に、今までですと講師と言う方々がいて代わりの方が来ていたのですけれど講師がいないので、どなたか先生が休みになると変わりが来ないというのが現状になっています。また先ほど申し上げました様に私も59歳で来年退職するのですが、私たちの年代は教職員の数が多いのですね、これがこれから大量に退職していきます。大量に退職するとその次の年代の方が教頭とか校長になります、今の40代の方々は就職氷河期と言われている時代の方々に非常に教員としての人数が少ないのです、そして大量退職が出るので初任の先生方を大量に採用すると学校の中では管理職はいるけれども本来であれば一番力を発揮する40代後半とか50代前半の教員は全くいない状況で20代教員の割合が多くなると思います。若くてエネルギーがあるという事でメリットもありますけれども、如何せん経験不足であったり、保護者の方々とコミュニケーション取るにもある程度経験というものが必要になってきますので、この様な面の心配が今後どこの学校にも起こりえると、この38名の教員の内本校の9名が20代の教員です、30歳が4名いますので、かなり教員の若年化が進んでいるということも現状と言うところになります。また、新型コロナウイルスの感染症について、今いろんな報道で5月8日から5類に移行するのでこれに伴って学校の教育活動も以前の形に戻していく方向になるのかなと思っていますが、まだ十分注意を払っていく必要があります。先ほども申し上げました様に4月に新しい体育館を作って頂いたのですが、この体育館は非常に広いので卒業生の皆さんは旧体育館のイメージがあると思うのですが、今までの2倍近く広いのでこの630名の生徒全員入れてもある程度の間隔が確保取れますので、最近はいろいろな学校行事を全員対面で行えるようになっていきます。2月はえずこホールで立志式を行いました、これも昨年はコロナが心配で保護者の方を入れることが出来なかったのですが、保護者の方にも見て頂いたり、後輩の1年生にも見て頂いたりという事で実施することが出来ますし、3月に予定している卒業式も保護者の方2名まで今回は卒業式に参加して頂くようなかたちで計画をしているところです。

続いて資料の裏面ですが学校ではアクションプランとして学校経営等を資料にまとめてあります、学校経営方針は7項目ありましてこの内容は3年から5年を見越した中期的なスパンに沿った方針です、昨年4月に私が作ったものでここから2、3年は続けたいなと思っていることです。この中で特に私が先生方をお願いしていることが、5番になります、生徒に主体的に判断させる活動を計画的に設定し、自律的に判断し行動できる生徒の育成を目指す。いわゆる何々しなさい、この様に決まっているからやりなさい、もちろん決まりがあって、それに従って行動できることは非常に尊い事ではあるのですが、やらされてやるよりも自分でなぜその様な事をしなくてはならないのか、自分でこの様な意思でやったらいいのではないかと自律的に判断できる子供たちを育てたい、そのために手間はかかりますが一方的にも教え込むよりも子どもたちに確り考えさせたり、話し合いながら自分たちの行動を決めさせるような教育活動を意として設定していく事を中期的なスパンで考えて実践しているところです。その中の一つとして12月から行っているのが、ブラック校則と言うのが問題になっています。本校でも校則はありますがブラック的なものは無いのですが、2ブロックというもの分かりましてね、あのような髪形をしていると昔はちょっと来いと言われて直して来いというふうに言って以前はしていましたが、今はそうじゃなくて、その様な事を指導して摩擦を起こすよりも、やっぱり中学校生活として送る時にどのような身なりだったら一番みんなと仲良くできるだろうとか、高校の試験を受けに行ったときにも誤解を受けずに済むのだろうか考えてみようね、こういったルールの見直しを生徒の代表とPTAの代表の方々と教員と庄子幹事さんにも来ていただきましたけれども、学校運営協議会と言う組織で地域の代表の方々にも入って頂いて大河原中学校の生徒心得の見直しを行っているところでした。

次に(1)~(4)まであります、令和4年度3月までの間1年間でこのことに力を入れてやっていきたいと思いますというのがこの4項目の中身です。一つは志教育の推進、これは志ですから社会に出てどんなふう生きて行こうか、それを確り3年間で考えさせる、その中でも先ほど話題になりました60年間途切れる事なく続けている立志式、本当に私も2年間大河原中学校の立志式を経験させて頂きました、もしかすると卒業生の皆さんご自身も経験されているかもしれませんが2月に立志式を行うのですけれども、この指導は11月から始まり3ヶ月続くのです、その間に確り自分の将来と向き合って、こんな仕事をしたいとかそれだけではないのです、人間としてこんなふう生きていきたい、こういう事を大切に考えて生きていきたい、こんなことで社会に役に立って生きていきたい、そう言った誓いを立てるまでのプロセスを経て中学2年生は非常に成長します、4月の全

国学力学習状況調査として学力の平均調査が報道されますけれども、あれに学習状況調査と言って子ども達の意識調査もあります。その質問の中に将来の夢や目標を持っていますかと言う質問項目があります。これは大河原中学校の生徒は全国の平均よりも10%持っていますと書いています。これは立志式を始めとした志の教育の推進の成果ではないのかなというふうに思っています。先日大河原警察署の生活安全課のお巡りさんと話をした時に、結構青少年の犯罪の中で検挙している人いっぱいいるのですけれど大河原中学校の卒業生このところさっぱりいませんと言う話なのです。やはり生き方について真剣に向き合った中学時代の影響も多少なりともあるのかなというふうに一寸自負しているところでもあります。2つ目の学力向上と言うところですね、いろいろ項目が載っていますがこれの中で特に生徒一人にタブレット1台町から対応して頂いております、なので宿題なども全部タブレットに先生方が送って、そこで子供たちが宿題できるような環境にもあります、やはりこの様に便利な物と実際にノート書いたりする事で覚える事もありますので、この様な事を両立しながら学力向上にも努めていきたいと言うふうに思っています。3番目に社会性と有用感の育成とありますが、これは岡崎会長さんにもお世話になっておりますが本校に防災ボランティアチームがありまして、こちらは地域と連携した水害を想定しての防災訓練でありますとか、それから地域危険個所のマップ作り、これは各地区の区長さんからご指導を頂いたりしながら作ったりしています。この様なものをつくりながら防災の意識を高めると共に地域貢献というかたちで行わせて頂いております。あとは多分県内でも珍しいと思いますが、ボランティア部と言う部活動がありまして、これも大河原警察の生活安全課と連携しながらフォルテさんとかフレスコキクチさんの万引き防止のティッシュ配りとか啓発活動とか、それから介護施設等の訪問などこの様な事で大変好評を頂いているところです。

4番目として、きめ細かな生徒指導がありまして、先ほど申し上げました不登校への対応も行っています。ただいろいろ不登校の中でも、学習指導の面でもあるのですが発達に偏りの有る生徒の割合が多いなというふうに思っています。何年か前の文科省の調査では普通学級の中には大体6%偏った生徒がいると言う調査結果でした、つい先日12月に出た結果で8.8%に増えています。やはり大河原中学校も例外ではなくて、この様な生徒にどのような支援をしていけば、その子供がいちばん力を発揮できるのか、力が発揮できれば不登校や学力不振と言った課題は少しずつ解決に向かって行くのではないのかなとその様な面での教員の研修も必要ではないかなというふうに思っているところです。また教職員の働き方改革とか地域との連携とか課題はありますが、この様なかたちで令和4年度の教育活動を行っていて間もなく終了と言う事になります。私は今令和5年度の長堤アクションプランを作っているところですので、何かしらの機会がありましたらご紹介をさせて頂ければと思います。大変早口のスピーチになって申し訳ありませんでした。ご清聴ありがとうございました。